

社会福祉法人新栄会 オルト保育園 ひ3歳

令和6年度

東京都すくわくプロジェクト





概要

- + ねらい
- + 環境構成・スケジュール
- + 活動の様子
- + 子どもの様子
- + 振り返り
- + 保育士・保護者との共有

テーマ 虫



ねらい

虫の動きを観察したり、植物の成長の変化を楽しむ。



環境構成・スケジュール

環境構成

小さい虫かご、大きい虫かご（高20横30水槽）
大きい虫かご（高40横120水槽）

プランター小3つ、プランター大1つ、石、
落ち葉、



スケジュール

6月 虫の飼育、植物の種を植える。

7、8月 大きい虫かごでの飼育、植物の水やり

9、10月 虫の観察、花の水やり

11、12月 もっと大きい虫かごでの飼育と植物の共存

1, 2, 月 飼育の継続、チューリップの球根に水やり

3月 飼育の終了,チューリップの水やり

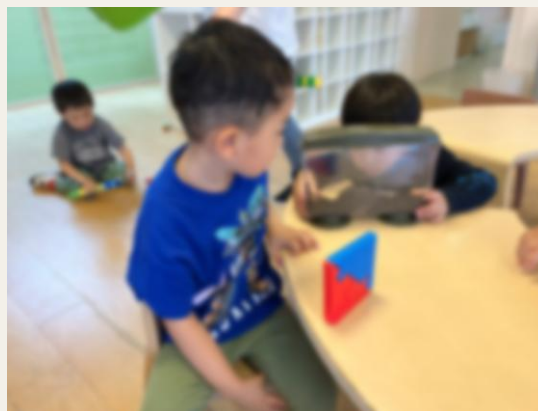
園庭や菜園で捕まえたダンゴムシを室内で飼育し始める。6月下旬から植物の種をプランターで育て始める。菜園から土と幼虫が入った大きい虫かごを用意し、飼育を始める。今まで飼育していた小さい虫かごのダンゴムシや公園で見つけたコガネムシも一緒に入れてみる。植物の種から芽を出し、水をあげ、徐々に成長していく様子を観察する。もらったカミキリムシを飼育するが1週間で亡くなっていた。

虫の飼育では、土の中の幼虫が蛹から孵化し、コガネムシが出てきたことに子どもたちは興奮していた。バッタも菜園で捕まえた育てたが、すぐに亡くなってしまったことに、「暑かったからかな」と気付く子も見られた。植物の成長では、花が咲き、日々水をあげていたことで育ったという自信に繋がったが、それ以上の成長（トマト、きゅうりが実こと）はなかった。

もっと大きい虫かごの購入により、虫の飼育と植物の共存を開始した。植物はきゅうりが枯れ、トマトは高さが超えてしまうので断念した。新たに菜園にあった大きいたんぽぽを植えることに、土と飼っていた虫（ミミズ、ダンゴムシ、クモ）を入れた。乾燥が早く、細目に霧吹きで水をあたえた。

もっと大きい虫かごでの飼育は継続しているが、新たにチューリップの球根を頂いたので、大きいプランターで育てる。

活動内容



虫を捕まえる子が徐々に増えてきて、誰が一番ダンゴムシを捕まえられるかを競っていた。

カブトムシの幼虫だと思って飼育していたこともあって、なかなか出て来ない事に「カブトムシはやく出なさい」と声をかけていた子がいた。

カミキリムシを飼育した時に、暑さもあり1週間でなくなった。子どもたちにどうして亡くなったのか聞いてみると、「暑かったんじゃない」という声が聞こえた。菜園に埋めに行ったが、日差しが強く、子どもたちは「暑いところはダメだよ」と言って日陰を探し、そこに埋めた。

新たにもっと大きい虫かごを部屋に設置すると、「葉っぱが食べられちゃうよ」という子どもの声に、「食べてもいい葉っぱなんだ」と保育士が伝えたと、安心した様子でその事を友だちに伝えていた。

12月に実がならなかったトマトの茎から再度花が咲き、そこからトマトが実ったことに子どもたちが喜び、「食べれるの」と聞いていた。

チューリップの球根をもらい、大きいプランターで育て」始めた。球根から少し芽を出すタイミングで雑草（たんぽぽ）が出たので、図鑑を見て何の葉っぱを見比べていた。

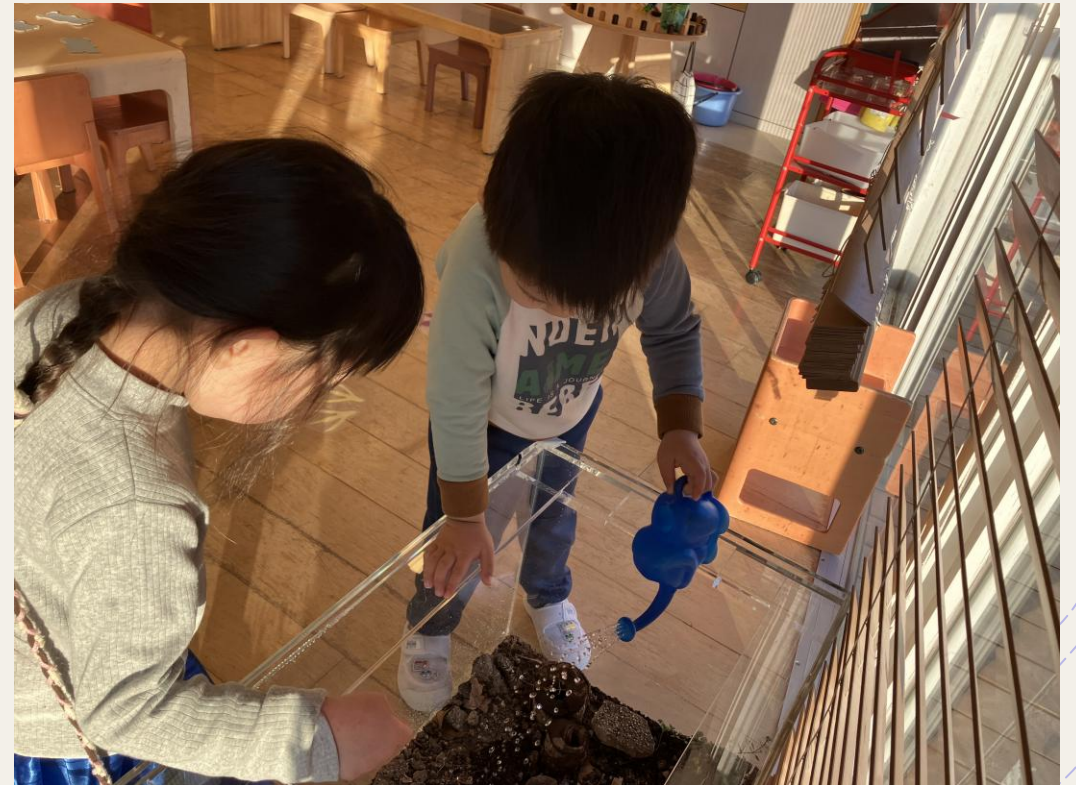
2月、寒い日が続き、・3月、虫かごの虫がいなくなり、また部屋の移行で見る機会も減ったことで虫の飼育を終了する。チューリップは咲くまで継続する。

子どもの様子



振り返り

- + ・夏に飼育していた虫が亡くなった際に、子どもたちから「暑かったからかな」と気付き、その後は細目に霧吹きやジョウロで水を与える工夫が見られ、子どもたちも”どうすればいいのか？”と考えていたことが感じられた。
- + ・チューリップを育てている時にチューリップ以外の芽が出た時にチューリップではないことに気付き、部屋の植物の図鑑を開いて同じ芽の葉を探してこの芽はたタンポポだと知る事が出来た。子どもたちの中にこれは違う、何だろう？というのがあり、調べるという行動に繋がったと感じられた。
- + ・長い期間継続した活動だったが、子どもたちの中で見慣れた、飽きてしまったという児の姿が感じられたので、短い期間で子どもたちが興味が続くようなかつどうの方がより子どもたちが集中し、興味を深める活動になったのではないかと感じた。





ありがとうございました

社会福祉法人新栄会
オルト保育園